

さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.858
2019.12.8

発行

日本共産党さいたま市議会議員団
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165
http://www.jcp-saitama.jp/

神田よしゆき	とば めぐみ
とりうみ敏行	金子 あきよ
松村 としお	たけこし 連
久保 みき	



市長のボーナス 10年で約133万円増

議案質疑

引き上げはやめよ

11月28日の本会議で神田よしゆき市議は、12月議会における市長提出議案に対する質疑をおこないました。

はじめに議長・議員、市長・副市長の期末手当（いわゆるボーナス）引き上げをおこなう条例について質しました。今回の市長の期末手当引き上げ額は9万9000円、10年前と比較して133万円も増額しています。期末手当引き上げを求める条例は、毎年12月議会に市長提出議案として出されますが、党市議団は市民のくらしをふまえ、一貫して反対してきました。

神田市議が「昨年、議会は議長・議員の期末手当引き上げを否決したが、特別報酬等審議会および市長はどう受け止めたのか。」と質したのに対し、市は「議会否決の経緯と趣旨を踏まえて審議し、引き上げる答申をもらった。答申を最大限尊重する立場から本議案

を提出した」と答弁。昨年度引き上げなかった分を上乗せした額を上程しています。

避難情報はすべての市民に届けよ

つぎに台風19号災害対策の補正予算について質問しました。

神田 ハザードマップ（災害予測図）の修正内容は。

市 水害では、浸水想定区域外への水平避難が原則。荒川に近い西区、桜区、南区は区域を越えて浸水想定区域外へ避難する広域避難を進めてきた。荒川・入間川、利根川・江戸川の2つの洪水ハザードマップで、緊急避難時に指定緊急避難場所で垂直避難の利用ができる表現に修正する。

神田 ハザードマップをすべての市民に配布することについてはどう考えるか。

市 ハザードマップは、情報公開コーナーでの配布、市ホームページに掲載している。



署名提出に立ち会った市議（右から3人目）

30人学級実現求め 1万4363人の署名提出

11月19日に「30人学級を実現するさいたま市民の会」が「ゆきとどいた教育をすすめるための30人学級実施を求める請願」を署名1万4363人分を添えて議会に提出しました。提出には松村としお市議が立ち会いました。

さいたま市は国・県の制度で35人学級を小学1・2年生で実施していますが、全国20政令市のうち、本市と大阪市以外の18市で独自の上乗せで少人数学級を拡大しています。さらに本市は一クラ

スの児童・生徒数が35人を超える学級の割合が政令市平均を大きく上回っています。

これまで本市は、政令市のなかでも財政状況が良好にも関わらず、少人数学級の効果を認めつつも「国でやること」と言うばかりで、独自にとりくむことに背を向け続けてきました。しかし近年はとくに教員の長時間勤務が問題になっており、本市も例外ではありません。教員の仕事を減らすためにも、子どもたち一人ひとりに目を行き届かせるためにも、少人数学級実施は待ったなしの課題です。

今年度は例年より在庫不足となったため増刷する。地域によって必要な情報が異なるため、引き続き市民が必要な情報を入手できるよう努める。

学習支援 半年足らずで見直し

今年度、生活困窮者学習支援事業が一般競争入札によって、大手塾産業に委託先が変わりました。党市議団は6月議会で学習支援事業を一般競争入札にすることの問題点を指摘した経緯がありますが、12月議会に見直しの議案がかかりました。

神田 今回の見直しは、一般競争入札で事業者を選定したことにより、十分な効果があげられなかったという反省があったからか。

市 あくまでも利用者へのアンケート調査の結果。「学習環境を確保しつつ、相談しやすい雰囲気のある教室」「勉強の指導技術があり、生徒の話を聞く姿勢を身に着けている支援員」のニーズがあり、事業者選定の方法について検討している。

市は事実上、今回の事業者選定に問題があったことを認めました。

西区 市政報告会

台風19号被害で切実な声

久保市議
市政報告会をおこなう



11月24日、西区馬宮コミュニティセンターで市政報告会が開催され、久保みき市議が報告しました。

9月議会の議案や請願、決算審査の様子などを報告し、参加者からの質問に答えました。質問は、学校のトイレの状況、コミュニティバスについて、公園の遊具の使用禁止について、JR川越線についてなど多岐にわたりました。

した。

また、台風19号の被害については「深夜3時の避難指示は多くの市民を不安にし、混乱させたのでは」「防災無線が聞こえず、避難指示を知らなかった」などの切実な声が寄せられました。

9月議会で設置された台風19号災害対策

調査特別委員会では、市は「強風を懸念して早い段階から避難所を開設した。しかし、次第に豪雨の水害が心配されたことから垂直避難に切り替えた」と説明していますが、今回の経験を踏まえて水害に対する避難のあり方を考えていく必要があります。党市議団として、寄せられた声を市政にいかしていきます。

西区 藤橋の改修を求める



11月19日、西区島根・植田谷本地域の住民が、市と藤橋の改修について懇談をおこない、久保みき市議が同席しました。

1993年に竣工した藤橋は鴨川にかかっており、大宮区三橋と西区大字植田谷本をつなぐ橋です。橋の架け替えの際に旧橋の石材を敷石として利用したため橋の歩道がデコボコしています。傾斜もきつく、とくに高齢者にとっては通行が困難な危険な状況で、早急な改修が求められます。

住民の方々は、「傾斜をゆるやかにしてほしい」「歩道を直し、滑らないようにしてほしい」と要望を伝え、市は「改善に向けて対応して



▲橋の歩道に入る部分の傾斜がきつい。橋自体もアーチ型で、対向車が見えにくい

いく」と答えました。久保市議は、改修にあたっては住民の声をしっかり反映させるよう求めました。

緑区 教育センター跡地 いよいよ解体へ

緑区三室の県立総合教育センター跡地の活用について、住民運動の中で防災公園として整備する計画が進められています。今年度、土地を所有する埼玉県が建物解体の予算を可決し、10月に解体業者と契約が結ばれるなど準備が進められてきました。

「教育センター跡地利用を考える会」が11月20日に埼玉県の担当課と懇談をおこない、松村としお市議が同席しました。懇談のなかで、解体のスケジュールが示されました。年明けにアスベストの撤去工事を開始し、建物解体を3月から6月にかけておこないます。今回の解体工事は全体の一部で、残りについては



教育センター跡地利用を考える会と県の懇談で発言する松村市議

別業者が解体し、2021年3月頃に建物全体の解体が終わる見通しも明かされました。住民への説明や周知をもっと広い範囲でおこなってほしいとの要望も参加者から出されました。

県による解体がすべて終わったあとにさいたま市が土地を県から買い取り、防災公園整備をすることになります。8年にわたる粘り強い住民運動の大きな成果です。

あなたの身近な議員です



市議(北区)

神田よしゆき



市議(浦和区)

とりうみ敏行



市議(緑区)

松村としお



市議(桜区)

久保みき



市議(見沼区)

とばめぐみ



市議(南区)

金子あきよ



市議(中央区)

たけこし連